海外レポート	インド　チェンナイ

「インドにおける恋活・婚活マッチングサービス市場」

田中　啓介

＜米マッチグループと印 Shaadi 社の戦略的協議＞

2023 年２月２３日、米系大手マッチグループ社（日本のマッチングアプリ Pairs（ペアーズ）を運営するエウレカ社や米 Tinder（ティンダー）の株主としても有名）が、インドの婚活プラットフォーム大手 Shaadi.com への戦略的投資に関する継続的協議について、現在最終段階にあることをインドの経済紙 The Economic Times が報じました。

Shaadi.com は非常に業績が良く、2023 年下半期に上場を目指していると創業者が発言したことが昨年報じられましたが、その直後の今回のニュースは大きな話題を呼ぶこととなりました。

＜マッチングサービス市場規模＞

インドの婚活マッチングサービス市場は、2023 年に２億 9,210 万米ドルの売上規模に達するまでに成長を果たし、今後も 2027 年まで年間 0.91％の率で成長し続け、３億 290 万米ドルになるものと予想されています。また、ユーザー数においては 2027 年には 2,942 万人に達すると予測されています。

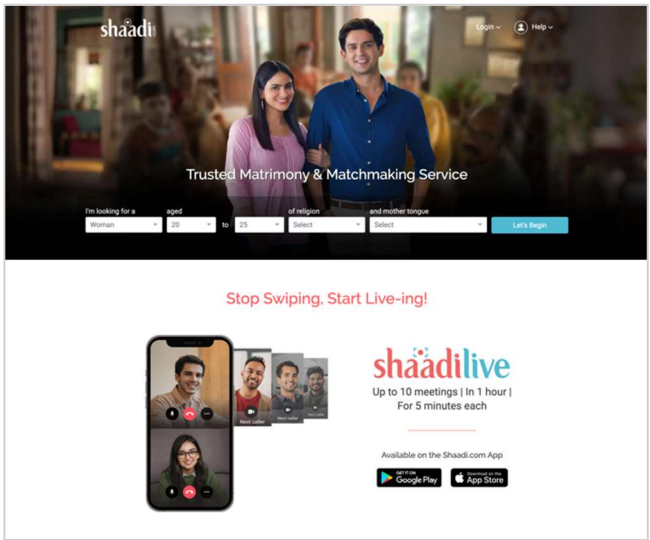
さらに、恋活マッチングサービスを含むインドの出会い系サービス市場全体は、2027 年にその市場規模が４億 310 万米ドルになると予測されており 、インドのオンラインマッチングサービス登録者数は世界第２位で、全世界の 23％を占めているという調査もあります。

＜インドの婚活・恋活事情＞

インドにおける恋愛結婚は現代でもまだ珍しく、いまだに伝統的な親族の社会的・経済的なステータスを維持するためのお見合い結婚が主流です。カースト制度が根強く残る社会において、結婚で重要視されるポイントとして、相手も自身と同じカーストに属することが挙げられます（インドの憲法においてカーストを理由とする差別行為が禁止されていますが、カースト制度そのものは引き続きインド社会の中で脈々と受け継がれています）。BBC の記事によると、とある調査では所属カースト外の配偶者がいると回答したインド人は 10％ 未満でした。さらに、既婚のインド人の 93％が、お見合い結婚であり、恋愛結婚をしたと回答した人はわずか 3％でした。

インドでは、親が自分の子どもにふさわしい相手を見つけるために、結婚相談所、婚活 Web サイト、新聞のお見合い相手募集広告、親族のつてや所属コミュニティ・カースト内のサービスを利用して婚活をするのが一般的です。インドで人気のサービスは、前述の Shaadi.com、Jeevansaathi、Bharat Matrimony などで、どのサイトでも年齢や職業のほか、言語や宗教、カーストなどのフィルターでプロフィールの検索ができます。Bharat Matrimony においては、再婚者専用の Divorce Matrimony、海外在住者専用の NRI Matrimony などのサービスも用意しています。このような婚活サイトは両親が登録して使うことが一般的で、本人が知らない間にプロフィールが登録されていたという話もよくあります。

一方、恋活・出会い系サービス市場は、急速な変化を遂げており、前述の通り、婚活市場よりも規模が大きいものと推測されています。性別や宗教を超えた関係が社会的に認められていないこの国で、結婚を目的としない若者たちも、スマートフォンの普及により、マッチングアプリを利用して交際相手を探すようになっているようです。



【参照：Shaadi.com 社ホームページ】